

自分スタイルの確立！ 通信制

可能性への挑戦！ 全日制

2024.10.09

体育祭2024 総合優勝は1年敬組



秋の一日、グラウンドに生徒たちの元気な声が響きました。

昨年までは八日市場ドームで開催してきた体育祭ですが、久しぶりにグラウンドでの開催となりました。大縄、ムカデリレー、台風の目リレー、棒引き等々・・・どの競技にも全力で打ち込む生徒たちの姿がありました。もちろん競技だけでなく、応援も皆で声を張り上げて頑張っていました。今回の体育祭で実行委員長を務めた木内一華さんは、次のように感想を述べています。。

私たちの代にとって初めてのグラウンドでの開催ということで不安もありましたが、実行委員全員の協力で素晴らしい体育祭を作り上げられたと思います。準備段階では、時間配分やルール設定、そしてクラス数の違いによる人数調整など、たくさんの課題を乗り越えてきました。実行委員長としての経験は、将来保育士を目指す自分にとって貴重なものとなり、子どもたちや保護者とのコミュニケーションに役立つと感じています。後輩の皆さんには、今回の経験を次に活かし、さらに盛り上がる体育祭を目指してもらいたいと思っています。



ムカデリレー



台風の目



棒引き



綱引き



綱引き



借り人・物競争

総合優勝を勝ち取った1年敬組体育祭実行委員 日下部聖来君のコメント

総合優勝という結果を勝ち取れたのは、クラス全員が一丸となり、最後まで諦めずに戦い抜いたからだと思います。事前練習では一人ひとりが役割を果たし、声を掛け合いながら連携を深めてきました。その成果は、大縄跳びやムカデリレーで全校1位という成績にも表れました。特に競技前の作戦会議では、みんなの意見を出し合い、戦略を練り直すことで、よりチームワークを高めることができました。「総合優勝は1年敬組」とアナウンスされた瞬間、クラス中が歓喜に沸き、来年もさらに高い目標を目指していこうと、全員の心がひとつになりました。心配されていた天候も、奇跡的に私たちを味方してくれ、無事に最後まで体育祭を終えられたことに感謝しています。今後も、この経験を生かし、みんなで切磋琢磨し合いながら、次のステージへ挑戦していきたいです。



GTECで1,111点のハイスコアー！

～難関大学の平均スコアに匹敵する高得点にも関わらず本人は納得いかず～



異国の地で輝く、語学の才能

モンゴル国籍のトメンジャルガル・ボルガさん（高校2年生）が、全国的な英語力測定試験であるGTEC（小学生から社会人までを対象としたスコア型英語4技能テスト）において、驚異的なスコア1,111点を記録し、GTECより表彰されました。このスコアは、英語を母国語としない学生にとって、まさに快挙と言えます

1,111点という数字は、海外の大学で授業を受け、積極的に議論に参加できるレベルであり、TOEICに換算すると900点以上に相当します。ビジネスシーンでも十分に通用する高度な英語力を証明するものであり、今後の活躍が期待される実力です。

ボルガさんはその素晴らしい結果にもかかわらず、「事前にスピーキングの練習をきちんとしていれば、もっと高い点数が取れたはず。」と悔しさをにじませました。その向上心は、単なる努力家の域を超え、真の学び手の姿を体現しています。

ボルガさんによると、「英語は誰かに教えてもらったわけではありません。私たちの世代は、インターネットの発達と共に育った‘スマホ世代’です。小さい頃からスマホでYouTubeやSNSに触れる中で、自然と英語に馴染んでいきました。そのため、私だけでなく、多くのモンゴルの若者が英語を話すことができます。」と語っています。

また、日本語も流暢に話すボルガさんですが、実は日本に滞在したのは小学校2年生のときのわずか2年間と、中学校2年生から現在に至るまでの3年半。母国語、英語、日本語を自在に使いこなす彼女の才能は、語学の枠を超えて多くの人々に感動を与えるものでしょう。

これから彼女がどのような未来を切り開いていくのか、心が躍ると同時に、その成長を見守り続けたいという気持ちでいっぱいです。きっと、ボルガさんの存在は、今まさに英語学習に取り組んでいる多くの生徒や、日々奮闘する教員たちにとっても、大きな励みとなることでしょう。

次世代のリーダーとして、日本から世界へ羽ばたく彼女の挑戦は、まだ始まったばかりです。



通信制3年生 相原鼓太君

英検準1級合格の快挙！

英語で世界に羽ばたく！相原君の挑戦と夢

通信制課程に在籍している相原君が、難関とされる「実用英語検定準1級」に4回目の挑戦でついに合格しました。大学中級レベルのこの資格は、社会生活で必要とされる英語を十分に理解し、使用できる力を証明するものです。例えば、TOEICであれば785点以上、GTECでは1,180～1,349点に相当する難易度であり、彼の努力と熱意がどれほどのものだったかを物語っています。

相原君が英語に真剣に向き合うきっかけとなったのは、海外での経験でした。何度か海外を訪れた際、日本人とばかり話していて、現地の人々と英語で思うようにコミュニケーションが取れなかった悔しさが、彼の中に強い学びの意欲を生み出したのです。

「いつか英語を自在に操り、世界中の人々と繋がりたい」という思いから、相原君は地道な勉強を積み重ねてきました。

相原君に英検合格の秘訣を尋ねると、こんなアドバイスをくれました。

「準1級は4技能（読む・聞く・話す・書く）のバランスが求められますが、特に書く力を重視することが大切です。筆記の試験はたった2問ですが、それが他の技能と同じ配点なので、ここを強化すると高得点に結びつきます。最初は苦勞したけれど、毎日少しずつ書く練習を続けました。」

努力の末に準1級に合格した相原君ですが、彼にとってこれは「まだ始まりに過ぎない」と言います。将来の夢は、大学で経営学を学び、国際社会でリーダーシップを発揮すること。今は希望する大学への合格を目指し、さらに自分を高めるべく予備校で勉強中です。

「大学入学後は留学して、英語力をさらに磨きたい」と力強く語るその瞳は、すでに未来を見据えています。準1級合格は、確かに大学受験で有利に働くかもしれませんが、しかし、相原君にとってこの合格は単なる結果ではなく、世界に羽ばたくための「翼」を得たことを意味します。

彼の熱意と挑戦する姿勢は、本校の他の生徒たちに大きな勇気と希望を与えることでしょう。相原君の次なる挑戦と、その夢の実現を心から応援しています。

「英語を通じて、もっと多くの人々と繋がり、世界で活躍したい」

そんな彼の夢が、輝く未来に向かって羽ばたいていくことを願ってやみません。

